

みらいをつくる技術力

三菱電線工業株式会社



当社主力生産拠点である箕島製作所

ゴム、樹脂、メタル素材やそれらを組み合わせた複合材素材を使ったシール材(Oリング、高性能ゴム成形品など)を開発・生産・販売している。

航空機用電線製造から事業を開始し、被覆ケーブル技術を応用する形で、防衛省向けOリングの国産化を契機にシール事業を展開。その後、航空機部品や国を挙げた国産ロケット開発事業にも初期段階から参画し、最新のH3ロケットの部品供給にも繋がっている。その後、半導体、車載、医療、航空宇宙、エネルギーなど幅広い分野で社会インフラを支えている。特に半導体分野では大手半導体製造装置メーカーも顧客として抱えている。製品の多くがカスタマイズ品であり、顧客からの細かな要求にも応えられる技術力が大きな武器である。

水素関連の取組・導入実績

創業以来、多様な業界の顧客から寄せられる、特殊な使用環境などの幅広い要望に対し、材料や形状を柔軟にカスタマイズし対応してきた。摩擦抵抗の低減や耐久性の向上、小型化などの課題にも、CAE技術を活用した現状分析と製品設計により、最適なシールを効率よく提案している。最近では、水素用シールとしても高い評価を得ており、もし困りごとがあれば、是非問合せいただきたい。

【高圧水素用Oリング】

航空宇宙向けシールの配合技術を生かし、低温高圧に適応するシール材料を開発している。水素用Oリングは高圧水素供給バルブ、燃料電池用水素タンクなどに採用されている。

【サンフロン®Uシール】 サンフロン®は当社の商標登録

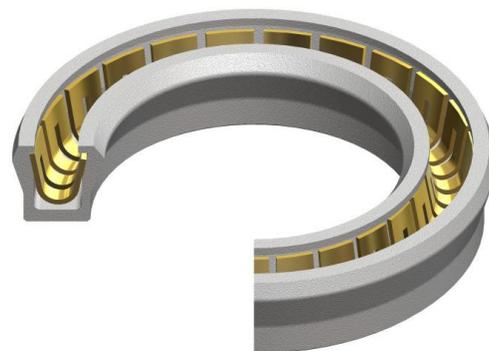
断面がU字状のサンフロン®リングと耐屈曲疲労性に優れたU字状ステンレス鋼製ばねを組み合わせたシール。主に高温、高圧、極低温といったゴム製のシールが使用できない条件下で採用されている。

【各種樹脂/金属ゴム複合シール】

ゴム・樹脂・金属単体では対応が難しい特殊な条件下で採用されている。

今後の展開・事業計画

水素エネルギー社会の実現に向けて、顧客のニーズに応える製品を迅速に設計開発し、モノづくりにおいては、箕島製作所(和歌山県)を主力工場としつつ、熊谷事業所(埼玉県)でも新工場を建設しており、生産能力を増強することで需要に応えていきたい。そのためにも『ステークホルダーとの信頼関係』、『人づくり』と『モノづくり技術』、『チャレンジ精神』を大切にし、常にイノベーションを意識して期待に応えていきたい。



高温、高圧、極低温といったゴム製のシールが使用できない条件下で採用されているサンフロン®Uシール



多種多様な要望に応える豊富なラインナップ

企業プロフィール

所在地 東京都千代田区丸の内三丁目4番1号 新国際ビル
 設立年月 1917年6月28日 資本金 80億円
 代表者 取締役社長 WEBページ <https://www.mitsubishi-cable.co.jp/contact/>
 田島 浩



担当部署

部署名 営業本部 産業機器グループ
 TEL 06-6411-1550
 E-mail yasuwaji@mitsubishi-cable.co.jp